学界展望

JFBS の 10 年を振り返る：その課題と展望

谷本　寛治
早稲田大学商学学術院商学部教授

2011 年にスタートした学会「企業と社会フォーラム」（Japan Forum of Business and Society：JFBS）は，今年 10 周年を迎えました。ここでは，JFBS のこの 10 年の足跡を振り返り，改めて JFBS の意義と今後の課題について考えておこうと思います。

JFBS は，その発足の 2 年前（2009 年 3 月）から活動していた研究会（Forum of Business and Society：FBS，座長谷本）を前身としています。学界，企業，行政，NGO などから 28 人のメンバーが 2 年間で 10 回の研究会を行い，持続可能な社会が求められる時代における企業の経済的・環境的・社会的な役割・責任について，セクターを超えて，理論的・実務的に議論しました（詳しくは，https://j-fbs.jp/events_past%20events.html#p1 参照）。国内外のスピーカーが 30 分報告したあと 1 時間半議論する，この議論中心のスタイルは，今も続いています。2010 年 11 月 APABIS（Asia Pacific Academy of Business in Society）東京カンファレンス（国連大学にて）の開催に協力し，研究会メンバーが 3 人登壇しました。これらの経験を踏まえ，限られたメンバー内での議論にとどめるのではなく，研究会 FBS をオープンな学会に発展させようということになりました。（それ以降の動きは，学会ニュースに出ています。https://j-fbs.jp/news.html）

当時 2000 年代半ばごろは，CSR ブームが日本でも急速に広がり始めていた時期でした。2008 年の金融危機による景気後退を経てもこの議論は低調になることはなく，2010 年代に入ると，持続可能な発展を求めるグローバルな動き，地球温暖化問題への議論の高まり，CSR 経営にかかわるさまざまな国際規格・標準の広がりなど，時代が大きく変化していました。日本にもその波が押し寄せていました。研究面では国際的には 1990 年代後半から 2000 年代にかけて，この領域への関心が高まり，研究論文も増加し，新しい専門の Journal や学会がスタートしたり，伝統的な学会でも統一テーマに設定されたりしました（このあたりの動向については，谷本「『企業と社会』研究の広がりと課題」『企業と社会フォーラム学会誌』6 号，2017 年参照）。日本ではアカデミックに研究に取り組む研究者は少なかったのですが，関心をもつ人も増えはじめ，専門的な議論を行う場が求められていたと言えます。

（学会の設立に当たっては，設立趣旨文の作成，会則の設定，個人会員・法人会員への呼びかけ，国内外協力団体への依頼，ロゴ作成依頼，メディア戦略，ウエブサイトの立ち上げ，学会誌作成に

日刊工業新聞の記事

持続可能な社会発展へ

企業の役割研究

20日に学会発足

産・学・官・労が結集

2011 年設立総会の模様

ついて出版社との交渉，設立総会の企画などの準備が行われました。）

JFBS 設立総会は，2011 年 5 月 20 日，三菱地所の協力を得て東京丸の内の丸ビルで開催されました。発足に際し，日刊工業新聞が 5 月 18 日付 1 面に「持続可能な社会発展へ 企業の役割研究―産・学・官・労が結集」と題した記事で紹介をしてくださいました。当初約 140 人の個人会員と，12 社の法人会員の支援を受けてスタートしました（三井物産，ユニリーバ・ジャパン・ホールディングス，積水ハウス，EY 新日本監査法人，損害保険ジャパン，大成建設，東洋経済新報社，日本電気，アクサ生命保険，ソニー，ビューローベリタスジャパン，大和証券。その後，味の素が加わったり法人会員の変動はありましたが，アルビオン，SG ホールディングス，YKK AP，JSR が加わった現在の法人会員は JFBS のサイトを参照下さい。https://j-fbs.jp/members.html）。また凸版印刷には協力組織として，設立当初から参加，協力を得ており，JFBS のロゴは，同社のプロボノの一環として作成していただきました。

設立大会においては次のような視点が提起されました。

1990 年代以降，持続可能な発展（経済・環境・社会）を求めるグローバルな潮流の中，企業の役割・責任が問い直され，CSR が議論されている。企業観の変化や，E・S・G を考慮・評価する市場の変化を踏まえ，持続可能な社会経済システム，企業を構築していくために，関係するステイクホルダー（企業・政府・労組・消費者団体・NGO 等）がその役割を再考し，協働を深める議論が必要である。国内でも 2000 年代以降，CSR がブームとともに議論されその制度化が急速に進展したものの，理解と誤解が混在している。しかし金融危機以降も，CSR への基本的姿勢は変わっておらず，持続可能なシステムを構築する取り組みは少しずつ進んでいる。また東日本大震災の際にも，企業の役割が改めて問われました。社会の中に存在する企業に，責任ある行動，持続可能なビジネスモデルの構築が求められている。

こういった議論を受け，JFBS の設立趣旨は次のように設定されました。

「持続可能な社会経済システムの発展が求められる現在，企業の経済的・社会的・環境的な役割・責任がトータルに問われる時

代になってきています。企業と社会の関係性を問う動きは，先進国から新興国・途上国まで急速な展開を示しており，国際社会との相互依存関係を深化させつつある日本の企業社会にとっても，重要なテーマとなっています。JFBS は，企業と社会の関係をめぐる諸問題について，国内外の学界，産業界，行政，労働界，消費者団体，NPO/NGO などとの幅広い連携を形成し，グローバルな動向を注視しながら，理論と現場と政策をつなぐ場をつくり，学際的に議論・研究することを目的としています。併せて，若手研究者や実務担当者の人材育成にも注力します。」

それから 10 年，企業と社会にかかわる領域，とくにマネジメント，会計，金融の領域において，新たなイニシアチブ，新しい基準が次々に現れ，日本企業は変化への対応に追われています。とくに北米，EU，アジア・パシフィックをはじめ，グローバルにさまざまな議論が展開しており，産業レベル，事業レベルにおいて新しい国際基準や規格が出ています。例えば，サプライチェーンにおけるマネジメント基準の設定，環境・社会に関する非財務情報の開示基準の設定や義務化の動き，金融機関・評価機関による ESG 重視の動きなど，さまざまな動きが企業に対応を迫っています。経済・環境・社会に関するパフォーマンスを考えるトリプルボトムライン（TBL）がシステムに取り組まれる動きが広がっているとも言えます。根底には，企業は誰のために，何のために存在するのか，資本主義市場のあり方まで，国際的に幅広く議論されています。しかしながら，90 年代後半にこの TBL の発想の重要さを唱えた John Elkington 自身は，四半世紀がたった現在，TBL は成功していないと述べています（2018 International Conference on Sustainability and Responsibility, Germany）。TBL は単なる会計的な指標などではなく，人々の幸福，地球の健康を生み出していくための考え方であり，新しい資本主義システムに経済・環境・社会の 3 つの遺伝子が組み込まれていく必要がある，と主張しています。そのためには，伝統的な市場経済の枠内での議論にとどまるのではなく，企業と NPO/NGO，政府，消費者，さらに大学（研究者 / 学生）など関係するステイクホルダーとの関係，それぞれの行動変容も同時に議論していくことが求められます。JFBS では，当初から企業とステイクホルダー・社会との相互関係を見据える視点で，マネジメント，企業社会，市場システムについて議論してきました。

JFBS の取り組み方としては，以下の点について注視してきました。

- 持続可能な企業社会について研究する
- グローバル社会における日本という視点をもつ
- セクター間の連携を深める
- 研究者と実務家が議論し交流する場（オープンなプラットフォーム）をつくる
- 責任あるリーダーを育成する
- 社会変革への触媒となる

こういった視点から JFBS は，設立当初から海外の関係学会や大学と積極的に連携しています。とくに APBIS（現在は ABIS に統合），EABIS（European Academy of Business in Society：現在は ABIS に名称変更，ベルギー），International Conference on Sustainability and Responsibility（2 年に一度開催，ドイツ），CSR Asia（香港），BSR（Business for Social Responsibility，アメリカ），さらに大学研究機関としては，Free

University Berlin（ドイツ）のEast Asian Studies，Cologne Business School（ドイツ）のCenter for Advanced Sustainable Management，National Taipei University（台湾）のCenter for CSR，Murdoch University（オーストラリア）のCentre for Responsible Citizenship and Sustainability，Inha University（韓国）のSustainability Management Research Institute，Russian Business Ethics Network（ロシア）などと連携をしています。

国内においては，グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン，企業市民協議会（CBCC），経済人コー円卓会議日本委員会，日本コーポレート・ガバナンス・ネットワークなどと連携しています。こういった団体や法人会員からは，これまで年次大会や研究会においてもたくさんのスピーカーに登壇いただいています。

学会が取り扱う主な研究テーマとしては，以下のものが挙げられます（*は当初の項目に追記したもの）。

- 企業と社会の関係，持続可能な発展，SDGs*，サーキュラーエコノミー*，公共政策
- CSR経営，コーポレート・ガバナンス，経営倫理
- 環境経営，環境会計，環境保全
- 消費者，安全・衛生，労働・人権，サプライチェーン
- 社会貢献，ソーシャル・マーケティング，CRM，ソーシャル・プロダクト
- ステイクホルダー・エンゲージメント，情報開示／報告書，CSR教育
- 企業価値，レピュテーション，SRI，ESG投資*
- NPO/NGO，セクター間の協働／提携，国際支援
- マルチ・ステイクホルダー・プロセス，グローバル・ガバナンス，国際基準
- ソーシャル・ビジネス，ソーシャル・イノベーション
- 国際比較，教育方法*など

もちろんこれですべての課題を網羅しているわけではありませんが，「企業と社会」というテーマは幅広く，関連する領域は非常に広いと言えます。したがって，研究としては関連諸領域との連携も必要ですし，アプローチとしては学際的な視点も求められます。企業経営の現場からすると，CSRやサステナビリティにかかわる課題は，関連の部署との連携の中で取り組まなければならない課題です。

JFBSがこれまで行ってきた基本活動は次の通りです。

- 9月に開催する年次大会（ドクトラル・ワークショップも開催）
- 年3〜4回開催する定期研究会
- 研究助成金の提供
- 学会誌（年報）の発行（千倉書房刊）
- 海外提携学会・組織との協働
- ウエブサイトによる情報発信，国際会議や海外Journalに関する情報提供など

JFBSは，当初から国内外のネットワークを通じて研究者や実務家が集まる場であり，多様なスピーカーが集まってきました。ここでは，第1回から第10回までの年次大会のテーマとキーノート・スピーカーを振り返っておきます。なお各回の企画セッションのテーマと報告者は，後段**資料1**にまとめています。

年次大会テーマ一覧

2011 – 2021　JFBS 年次大会テーマ		
2011	第 1 回	**持続可能な発展とマルチ・ステイクホルダー：Sustainable Development and Multi-Stakeholders** Keynote Speakers: ■ Juliet Roper (Professor, Waikato Management School, The University of Waikato, New Zealand) ■ Jeremy Prepscius (Vice President, BSR Asia, Hong Kong)
2012	第 2 回	**持続可能な発展とイノベーション：Sustainable Development and Innovation** Keynote Speaker: ■ Daniele Chauvel (Research Professor, SKEMA Business School, France)
2013	第 3 回	**CSR とコーポレート・ガバナンス：CSR and Corporate Governance** Keynote Speaker：■ Joachim Schwalbach (Professor, School of Business and Economics, Humboldt University of Berlin, Germany)
2014	第 4 回	**持続可能性と戦略：Sustainability and Strategy** Keynote Speakers: ■ CB Bhattacharya (Professor, European School of Management and Technology, Germany) ■ Isamu Wada (CEO, Sekisui House)
2015	第 5 回	**企業家精神とサステナブル・イノベーション：Entrepreneurship and Sustainable Innovation** Keynote Speakers: ■ Richard Welford (Chairman, CSR Asia, Hong Kong) ■ Yoshimitsu Kobayashi (Chairman, Member of the Board, Mitsubishi Chemical Holdings Corporation)
2016	第 6 回	**社会的課題とマーケティング：Marketing and Social Change** Keynote Speakers: ■ Dirk Matten (Professor, Schulich School of Business, York University, Canada) ■ Fulvio Guarneri (President and CEO, Unilever Japan Customer Marketing)
2017	第 7 回	**サステナブル・エンタープライズ―企業の持続性と社会性：Sustainable Enterprise: Revisiting an Enterprise Concept** Keynote Speakers: ■ Jeremy Moon (Professor, Department of Inter-cultural Communication and Management, Copenhagen Business School, Denmark) ■ Masaru Terada (President, Terada Honke)
2018	第 8 回	**企業と社会の戦略的コミュニケーション：Strategic Communications in Business and Society** Keynote Speakers: ■ Carol Adams (Professor, Durham Business School, Durham University, UK) ■ Shuri Fukunaga (Chief Executive Officer, Burson-Marsteller)
2019	第 9 回	**サステナビリティ人材の育成と経営教育：CSR/Sustainability in Management Education** Keynote Speakers: ■ Elisabeth Fröhlich (President, Cologne Business School, Germany) ■ Toshio Arima (Chairman of the Board, Global Compact Network Japan)
2021	第 10 回	**サーキュラーエコノミーを目指して：Circular Economy Transition: Exploring the Institutional, Organizational & Behavioral Dimensions** Keynote Speakers: ■ R. Edward Freeman (Professor, Darden School of Business, University of Virginia, USA) ■ Valentina Carbone (Professor, ESCP, Paris, France) ■ Marjut Hannonen (Minister-Counsellor, Head, Delegation of the European Union to Japan) ■ Tomomi Fukumoto (Executive Officer, Division COO, Corporate Sustainability Division, Suntory Holdings)

*2020 年は Covid-19 の影響で中止・延期になりました。所属・肩書は当時のものです。

2017 年第 7 回大会より

左：Schwalbach 教授 右：Moon 教授

2018 年第 8 回大会より

Adams 教授キーノート・スピーチ

ところで，2013 年の第 3 回大会は，ドイツフンボルト大学の Joachim Schwalbach 教授が主導してきた International Conference on Corporate Sustainability and Responsibility と共同開催を行いました（第 5 回，第 7 回も）。第 3 回大会時は，Japanese-German Center Berlin（JDZB）とも共催し，資金援助を受けることができました。

また，2016 年の第 6 回大会では日本マーケティング学会と，2018 年の第 8 回大会では日本広報学会とも連携し，協力を得て開催することができました。

これまで海外の Journal との連携も行ってきました。第 3 回大会において Journal of Corporate Citizenship（Greenleaf Publishing）と連携し，谷本が Guest Editor となり，Special Issue “Japanese Approaches to CSR” が組まれました。特集号は 2014 年の Issue 56 として発行されました。第 5 回大会では，Corporate Governance: the international journal of business in society（Emerald）と連携し，特集号 Special Issue “Entrepreneurship and Sustainable Innovation” が同様に組まれました。ただ最終的にアクセプトされた論文が少なかったためそれらは通常号に回され，特別号は発刊されませんでした。

JFBS の主な特徴を改めてまとめておきます。

- オープンなネットワークの構築をめざし，国（地域），セクターを超えた連携に務めていること。会員の多様性があり（個人会員：大学人 50％，企業人 35％，NGO 他 15％。法人会員の参画），国内外の連携組織との交流がなされています。
- テーマに沿ったスピーカーを広く招待していること。とくにキーノート・スピーカーは，海外から当該領域で著名な研究者と，日本のトップ経営者が登壇しています。企画セッションにおいても，各テーマの専門家（研究者・実務家）を招待し，突っ込んだ議論をしています。
- オープンな Call For Paper を行っていること。年次大会における CFP は，会員のみならず国内外へオープンに報告を募っており（毎年 10 か国前後から参加者が集まり），英語と日本語のセッションが組まれています。
- オープンな交流の場を作っていること。とくに年次大会においては，ランチ，コーヒーブレイク，ウェルカムパーティ，フェアウェルドリンクなどオープンな場を提供し，参加者間の交流を図っています。

2019 年第 9 回大会より

Fröhlich 教授キーノート・スピーチ

B Corp Asia のセッション

・ドクトラルワークショップを国内外の学生を交えて行ってきたこと。さらに優秀な報告に対しては助成金（最大 10 万円）を提供してきました。
・研究助成金を毎年提供してきたこと（1 件 20 万円）。「企業と社会」関連領域の研究促進を図ってきました。
・オープンな年報「企業と社会フォーラム学会誌」の発行（日本語・英語の論文）。一般投稿論文は，会員にとどまらず，国内外オープンに公募し，ダブル・ブラインド・レビューを行っています。

【補足】これまで学術論文の投稿は（第 2 号～第 10 号）43 本で採択されたのは 18 本，採択率は 41.8％でした。事例紹介・解説の投稿は（第 5 号～第 10 号）9 本で採択されたのは 5 本，採択率は 55.5％でした。レビュアーとして協力していただいた方々のお名前は，後段**資料 2** をご覧下さい。

以上のようなユニークな面は伸ばしつつ，今後の 10 年を見据えた課題・展望として次のような点を挙げておきたいと思います。

・会員の拡大。関連領域で研究している研究者，とくに若手研究者を巻き込んでいくことが求められます。法人会員についてももう少し参加企業を広げていくことが期待されます。
・研究助成活動の再開。現在予算の制約で一時停止しているため，早い再開が期待されます。
・実務的なセミナーの開催。研究者と実務家の交流を図ってきていますが，さらに実務的なセミナーやエグゼクティブを巻き込んだセミナーなどの開催や，広く一般向けのセミナーやイベントなどの取り組みも，今後検討する必要があるかもしれません。
・連携組織との協働の活発化。連携している国内外の組織と，これまで以上に活発な研究活動・協働が求められるでしょう。
・ウェビナーの活用。コロナ禍において，2020 年 12 月，2021 年 1 月，5 月に海外のスピーカーとともにオンライン研究会やシンポジウムを開催しました。ポストコロナにおいてはこのスタイルも積極的に活用し，学会活動の幅を広げていくことが期待できると思います。

資料 1

各大会のキーノート・スピーカー，企画セッションとそのスピーカーを，資料としてまとめておきます（なお所属・肩書は当時のものです。また日本語表記のセッションでの使用言語は日本語，英語表記は英語です）。

■ 2011 年　第 1 回年次大会（9/16）

「持続可能な発展とマルチ・ステイクホルダー」

“Sustainable Development and Multi-Stakeholders”

Keynote Speakers

・Juliet Roper (Professor, Waikato Management School, The University of Waikato, New Zealand)

・Jeremy Prepscius (Vice President, BSR Asia, Hong Kong)

Plenary Session：日本における円卓会議の可能性

・関正雄（損害保険ジャパン CSR 統括部長）

・佐藤正弘（元・内閣府／京都大学経済研究所准教授）

・田村太郎（ダイバーシティ研究所代表理事）

・加来栄一（日本労働組合総連合会）

・阿南久（全国消費者団体連絡会事務局長）

・谷本寛治（一橋大学大学院商学研究科教授）

司会：水口剛（高崎経済大学経済学部教授）

■ 2012 年　第 2 回年次大会（9/20–21）

「持続可能な発展とイノベーション」“Sustainable Development and Innovation”

Keynote Speaker

・Daniele Chauvel (Research Professor, SKEMA Business School, France)

Plenary Session 1：Innovation for Sustainable Development

・Daniele Chauvel (Research Professor, SKEMA Business School, France)

・Ray Bremner (President & CEO, Unilever Japan Customer Marketing)

・Botaro Hirosaki (Special Advisor, NEC)

・Kanji Tanimoto (Professor, School of Commerce, Waseda University)

Chair：Masahiro Okada (Associate Professor, Graduate School of Business and Commerce, Keio University)

Plenary Session 2：消費を通じた社会的課題解決

・大平修司（千葉商科大学商経学部准教授）

・園部靖史（高千穂大学商学部准教授）

・Sumire Stanislawski（早稲田大学商学部助手）

Chair：Florian Kohlbacher (Head of Business & Economics Section, German Institute for Japanese Studies)

Plenary Session 3：日本の企業社会とイノベーション

・嶋村和行（大成建設環境本部副本部長）
・西山圭太（経済産業省経済産業政策局大臣官房審議官経済社会政策担当）
・仁平章（日本労働組合総連合会経済政策局長）
・鈴木亨（特定非営利活動法人北海道グリーンファンド理事長）
・古谷由紀子（公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会常任顧問）
司会：金井一頼（大阪商業大学総合経営学部教授）

■ 2013 年　第 3 回年次大会（9/19–20）

International Conference on Corporate Sustainability and Responsibility ／ Japanese-German Center Berlin（JDZB）との共催

「CSR とコーポレート・ガバナンス」“CSR and Corporate Governance”

Keynote Speaker

・Joachim Schwalbach (Professor, School of Business and Economics, Humboldt University of Berlin, Germany)

Plenary Session 1：CSR and Corporate Governance: Comparative Study of European Companies and Japanese

・Verena Blechinger-Talcott (Professor, Japanese Politics and Political Economy, Free University of Berlin, Germany)
・Masayuki Kinoshita (Representative Director, Senior Executive Managing Officer, MITSUI & CO., LTD.)
・Takahiro Ogasawara (Chief Corporate Responsibility Officer, AXA Life Insurance)
・Carsten Schmitz-Hoffmann (Director, Business Unit Private Sector Cooperation, Deutsche Gesellschaft für Internationale Zusammenarbeit (GIZ) GmbH, Germany)
・Kanji Tanimoto (Professor, School of Commerce, Waseda University)
Chair：Gregory Jackson (Professor, School of Business and Economics, Free University of Berlin, Germany)

Organized 1：日本企業のコーポレート・ガバナンス “Corporate Governance of Japanese Companies”

・Gregory Jackson (Professor, School of Business and Economics, Free University of Berlin, Germany)
・宮島英昭（早稲田大学商学部教授）
・中山泰男（セコム常務取締役）
・立石文雄（オムロン取締役会長）
司会：荻野博司（朝日新聞社企画委員／ NPO 法人日本コーポレート・ガバナンス・ネットワーク企画委員長）

Organized 2：Compliance and Strategic Choice

・Akitsugu Era (Vice President, BlackRock Japan)

・Herbert Hemming (President and Representative Director, Bosch Japan)
・Kiyomi Saito (President, JBond Totan Securities)
・Fumitoshi Sato (Managing Director, Horiba)
・Masao Seki (Managing Director, Sompo Japan Environmental Foundation / Senior Advisor CSR, Sompo Japan / Associate Professor, Meiji University Management School)

Chair：Kyoko Sakuma-Keck (Senior Researcher, Solvay Business School of Economics and Management, Belgium)

Organized 3：Supply Chain Management

・Alan Aicken (Vice President and Chief Sustainability Officer, Huawei Technologies, China)
・Nick Barter (Senior Lecturer, Asia-Pacific Centre for Sustainable Enterprise, Griffith University, Australia)
・Yoshitaka Okada (Professor, Faculty of Liberal Arts, Sophia University)
・Hitoshi Suzuki (President, Institute for International Socio-Economic Studies)

Chair：Katsuhiko Kokubu (Professor, Graduate School of Business Administration, Kobe University)

Organized 4：ビジネスと人権“Business and Human Rights”

・熊谷謙一（公益財団法人国際労働財団副事務長）
・黒田かをり（一般財団法人 CSO ネットワーク事務局長・理事）
・Luigi Colantuoni (President, Tokyo Branch, Total Trading Int'l, S.A.)
・大久保和孝（新日本有限責任監査法人シニアパートナー）

司会：石田寛（NPO 法人経済人コー円卓会議日本委員会事務局長）

Plenary Session 2：CSR and Corporate Governance: Integrated Report

・Carol Adams (Director, Integrated Horizons / Professor, Monash Sustainability Institute, Monash University, Australia)
・Alan Aicken (Vice President and Chief Sustainability Officer, Huawei Technologies, China)
・Jiang Wanjun (Associate Professor, Guanghua School of Management, Peking University, China)
・Hidemi Tomita (Lloyd's Register Quality Assurance Limited / Chair, GRI Multi-stakeholder Committee)

Chair：Joachim Schwalbach (Professor, School of Business and Economics, Humboldt University of Berlin, Germany)

■ 2014 年　第 4 回年次大会（9/18–19）

「持続可能性と戦略」“Sustainability and Strategy”

Keynote Speakers

・CB Bhattacharya (Professor, European School of Management and Technology, Germany)
・和田勇（積水ハウス代表取締役会長兼 CEO）

Plenary Session 1：Sustainability and Strategy　「持続可能性と戦略」

・Nick Barter (Associate Professor, Asia-Pacific Centre for Sustainable Enterprise, Griffith University,

Australia)

・CB Bhattacharya (Professor, European School of Management and Technology, Germany)

・和田勇（積水ハウス代表取締役会長兼 CEO）

Chair and Panelist：Masahiro Okada (Professor, Graduate School of Business Administration, Keio University)

Organized 1：Sustainability and Brand Management

・David Hessekiel (Founder and President, Cause Marketing Forum, USA)

・Hidenori Imazu (Manager, Toppan Idea Center, Toppan Printing)

・Takeshi Ohta (Deputy Director, Planning Section, CSV Management Dept., CSV Division, Kirin Holdings)

Chair and Panelist：Tobias Bielenstein (Managing Partner, Branding- Institute, Germany)

Organized 2：Sustainable Strategy and Emerging Markets

・Ashir Ahmed (Associate Professor, Institute for Advanced Study, Kyushu University)

・Yoko Nagashima (Japan Environmental Manager, Hewlett-Packard Japan)

・Ashok Roy (Managing Partner, jED)

Chair：Masahiro Okada (Professor, Graduate School of Business Administration, Keio University)

Organized 3：持続可能性と金融市場

・金井司（三井住友信託銀行経営企画部理事・CSR 担当部長）

・黒崎美穂（ブルームバーグ ESG スペシャリスト）

・山本利明（大阪電気通信大学金融経済学部教授）

・横山正浩（大和証券グループ本社広報部担当部長）

司会：雨宮寛（コーポレートシチズンシップ代表）

Organized 4：Green Management

・Takenobu Shiina (General Manager, Environmental Sustainability Strategy Department, Corporate Communication Division, Suntory Holdings)

・Maho Takahashi (Manager, Charity & Campaign, Lush Japan)

・Keiko Zaima (Professor, Faculty of Business Administration, Kyoto Sangyo University)

Chair：Gabriel Eweje (Associate Professor, College of Business, Massey University, New Zealand)

Plenary Session 2 (Wrap-up)：Sustainability and Strategy

・Nick Barter (Associate Professor, Asia-Pacific Centre for Sustainable Enterprise, Griffith University, Australia)

・Tobias Bielenstein (Managing Partner, Branding- Institute, Germany)

・Hiroshi Amemiya (President, Corporate Citizenship)

・Gabriel Eweje (Associate Professor, College of Business, Massey University, New Zealand)

Chair：Masahiro Okada (Professor, Graduate School of Business Administration, Keio University)

■ 2015 年　第 5 回年次大会（9/10–11）

International Conference on Corporate Sustainability and Responsibility ／ CSR Asia との共催

「企業家精神とサステナブル・イノベーション」

“Entrepreneurship and Sustainable Innovation”

Keynote Speakers

・Richard Welford (Chairman, CSR Asia, Hong Kong)

・Yoshimitsu Kobayashi (Chairman, Member of the Board, Mitsubishi Chemical Holdings Corporation / Chairman, Japan Association of Corporate Executives)

Plenary Session 1：Intrapreneurship and Sustainable Innovation

・Alan Aicken (Vice President and Chief Sustainability Officer, Huawei Technologies, China)

・Yukiko Araki (Corporate Officer, Executive General Manager, CSR and Environmental Strategy Division, Hitachi)

・Luigi Colantuoni (Chief Representative for Japan, Total / President, Total Trading International, Tokyo Branch)

・Joachim Schwalbach (Professor, School of Business and Economics, Humboldt-University of Berlin, Germany)

・Kanji Tanimoto (Professor, School of Commerce, Waseda University)

Chair：Sadao Nagaoka (Professor, Faculty of Economics, Tokyo Keizai University)

Organized 1：社会的責任のある事業と法人形態

・岸本幸子（パブリックリソースセンター事務局長）

・篠健司（パタゴニア日本支社環境プログラム・ディレクター）

・竹内英二（日本政策金融公庫総合研究所主席研究員）

司会：土肥将敦（法政大学現代福祉学部教授）

Organized 2：Fail Forward

・Ashley Good (Founder and CEO, Fail Forward, Canada)

・Zaw Naing (Managing Director, Mandalay Technology, Myanmar)

・Yukie Ohno (Merchandising Dept., Daichi Wo Mamoru Kai)

Chair：Hiroshi Amemiya (CEO, Corporate Citizenship Japan)

Organized 3：Business and Human Rights

・Richard Welford (Chairman, CSR Asia, Hong Kong)

・Daisuke Takahashi (Partner, Shinwa Sohgoh Law Offices)

・Saul Takahashi (Regional Representative for Japan, Business and Human Rights Resource Centre)

・Keiichi Ushijima (Japan Area CCaSS Leader, Managing Director, Ernst and Young Shinnihon LLC)

Chair：Yasunobu Sato (Professor, Research Center for Sustainable Peace, the Institute for Advanced Global Studies, The University of Tokyo)

Organized 4：Sustainable Regional Innovation

・Kazushi Kaneto (President, The Islands' Company)
・Eisuke Tachikawa (Founder / Design Strategist, NOSIGNER)
・Sayaka Watanabe (CEO and Founder, re:terra)
Chair：Nobuyoshi Ohmuro (Professor, Faculty of Business Administration, Kyoto Sangyo University)

Plenary Session 2 (Wrap-up)：Entrepreneurship and Sustainable Innovation

・Alan Aicken (Vice President and Chief Sustainability Officer, Huawei Technologies, China)
・Hiroshi Amemiya (CEO, Corporate Citizenship Japan)
・Masaatsu Doi (Associate Professor, Faculty of Social Policy and Administration, Hosei University)
・Nobuyosi Ohmuro (Professor, Faculty of Business Administration, Kyoto Sangyo University)
Chair：Robert Hales (Senior Lecturer, Department of Business Strategy and Innovation, Griffith University, Australia)

■ 2016 年　第 6 回年次大会（9/8–9）日本マーケティング学会の後援

「社会的課題とマーケティング」“Marketing and Social Change”

Keynote Speakers

・Dirk Matten (Professor, Schulich School of Business, York University, Canada)
・Fulvio Guarneri (President and CEO, Unilever Japan Customer Marketing)

Plenary Session 1：Marketing and Social Change

・Gabriel Eweje (Associate Professor, Massey Business School, Massey University, New Zealand)
・Kyoko Fukukawa (Senior Lecturer, School of Management, University of Bradford, UK)
・Fulvio Guarneri (President and CEO, Unilever Japan Customer Marketing)
・Dirk Matten (Professor, Schulich School of Business, York University, Canada)
Chair：Gabriel Eweje (Associate Professor, Massey Business School, Massey University, New Zealand)

Organized 1：都市開発とイノベーティブ・マーケティング

・古川一郎（一橋大学大学院商学研究科教授）
・広瀬雄樹（積水ハウス CSR 室長）
・小山健（積和グランドマスト代表取締役社長）
・村上孝憲（三菱地所開発推進部新機能開発室副長）
・松田智生（三菱総合研究所プラチナ社会研究センター主席研究員・チーフプロデューサー）
司会：畢滔滔（立正大学経営学部教授）

Organized 2：持続可能性とイノベーティブ・マーケティング

・畑中晴雄（花王経営サポート部門サステナビリティ推進グループ部長）
・西尾チヅル（筑波大学大学院ビジネス科学研究科）
・小竹茜氏（LIXIL パブリックアフェアーズ部門グローバルコーポレートリスポンシビリティ推進室室長）
・田代裕貴（王子ネピアマーケティング本部長）
司会：大平修司（千葉商科大学商経学部准教授）

Organized 3：社会的課題とイノベーティブ・マーケティング

・有本幸泰（イオントップバリュマーケティング本部ブランドマネジメント部）
・小寺徹（JTB コーポレートセールス／ CSV 開発機構専務理事）
・野田美奈子（SG ホールディングス総務部広報・CSR ユニットマネジャー）
・大瀬良伸（東洋大学経営学部准教授）
司会：永井朝子（BSR 日本ディレクター）

Organized 4：日本マーケティング学会セッション
・水越康介（首都大学東京大学院社会科学研究科准教授）
・横田浩一（横田アソシエイツ代表）
司会：大平修司（千葉商科大学商経学部准教授）

Organized 5：地方創生とイノベーティブ・マーケティング
・半谷栄寿（あすびと福島代表理事）
・水越康介（首都大学東京大学院社会科学研究科准教授）
・須賀大介（福岡移住計画主催）
・和田智行（小高ワーカーズベース代表）
司会：今津秀紀（凸版印刷トッパンアイデアセンターマーケティング企画部長）

Plenary Session 2 (Wrap-up)：社会的課題とマーケティング
・今津秀紀（凸版印刷トッパンアイデアセンターマーケティング企画部長）
・永井朝子（BSR 日本ディレクター）
・西尾チヅル（筑波大学大学院ビジネス科学研究科）
・大平修司（千葉商科大学商経学部准教授）
司会：福川恭子（Senior Lecturer, School of Management, University of Bradford, UK）

■ 2017 年　第 7 回年次大会（9/7–8） International Conference on Corporate Sustainability and Responsibility との共催

「サステナブル・エンタープライズ：企業の持続性と社会性」
“Sustainable Enterprise: Revisiting an Enterprise Concept”

Keynote Speakers
・Jeremy Moon (Professor, Department of Intercultural Communication and Management, Copenhagen Business School, Denmark)
・Masaru Terada (President, Terada Honke)

Plenary Session 1：Sustainable Enterprise: Revisiting an Enterprise Concept
・Sarah Jastram (Professor, Department of Strategy and Leadership, Hamburg School of Business Administration, Germany)
・Katsuhiko Kokubu (Professor, Graduate School of Business Administration, Kobe University)
・Jeremy Moon (Professor, Department of Intercultural Communication and Management, Copenhagen Business School, Denmark)
・Joachim Schwalbach (Professor, School of Business and Economics, Humboldt-University of Berlin,

Germany)

・Masaru Terada (President, Terada Honke)

Chair：René Schmidpeter (Professor, Center for Advanced Sustainable Management, Cologne Business School, Germany)

Organized 1：長寿企業から学ぶ「企業」像

・河崎保徳（ロート製薬東京支社広報・CSV 推進部部長）

・新田見篤（イトーキソリューション開発本部 Eco ソリューション開発室課長）

・原良憲（京都大学経営管理大学院教授）

司会：大室悦賀（京都産業大学経営学部教授）

Organized 2：サステナビリティと地域金融の在り方

・江上広行（電通国際情報サービス金融ソリューション事業部 VCF エバンジェリスト）

・斎藤栄太郎（全国信用協同組合連合会総合企画部副部長）

・三島大尚（全国信用協同組合連合会総合企画部主任調査役）

・和田裕介（日本政策金融公庫国民生活事業融資企画部ソーシャル・ビジネス支援グループグループリーダー）

・藤井良広（環境金融研究機構理事長）

司会：山本利明（大阪電気通信大学金融経済学部教授）

Organized 3：ソーシャル・ビジネスの組織戦略

・鳥居希（バリューブックス取締役）

・米澤旦（明治学院大学社会学部准教授）

・土肥将敦（法政大学現代福祉学部教授）

・大室悦賀（京都産業大学経営学部教授）

司会：金井一頼（大阪商業大学総合経営学部教授）

Organized 4：サステナブル・ビジネスモデルの構築

・惣宇利紀子（公文教育研究会社長室調査企画チームリーダー）

・阿部哲也（IKEUCHI ORGANIC 代表取締役社長）

・土肥将敦（法政大学現代福祉学部教授）

司会：鷲田祐一（一橋大学大学院商学研究科教授）

Plenary Session 2 (Wrap-up)：Sustainable Enterprise: Revisiting an Enterprise Concept

・Kazuyori Kanai (Professor, Faculty of Business Administration, Osaka University of Commerce)

・Nobuyoshi Ohmuro (Professor, Faculty of Business Administration, Kyoto Sangyo University)

・Yuichi Washida (Professor, Graduate School of Commerce and Management, Hitotsubashi University)

・Toshiaki Yamamoto (Professor, Faculty of Financial Economy, Osaka Electro-Communication University)

Chair：René Schmidpeter (Professor, Center for Advanced Sustainable Management, Cologne Business School, Germany)

■ 2018 年　第 8 回年次大会（9/6-7）日本広報学会との共催

「企業と社会の戦略的コミュニケーション」

“Strategic Communications in Business and Society”

Keynote Speakers

・Carol Adams (Professor, Durham Business School, Durham University, UK)

・Shuri Fukunaga (Chief Executive Officer, Burson-Marsteller)

Plenary Session 1：Strategic Communications in Business and Society

・Carol Adams (Professor, Durham Business School, Durham University, UK)

・Shuri Fukunaga (Chief Executive Officer, Burson-Marsteller)

・Masaki Tomioka (Senior General Manager, Corporate Brand Strategy Department, Corporate Sustainability Division, Suntory Holdings)

・Raymond Shelton (Executive Officer, Coca-Cola Bottlers Japan Holdings)

Chair：Daniel McFarlane (Adjunct Lecturer, School of Global Studies, Thammasat University, Thailand)

Organized 1：広報から見た CSR とコミュニケーション ＜日本広報学会共催セッション＞

・上野征洋（社会情報大学院大学学長／日本広報学会副会長）

・北見幸一（東京都市大学都市生活学部／大学院環境情報学研究科准教授）

・佐桑徹（経済広報センター常任理事）

・薗部靖史（東洋大学社会学部准教授）

司会：川北眞紀子（南山大学経営学部教授）

Organized 2：消費者とのコミュニケーション

・笹谷秀光（伊藤園顧問）

・高堰博英（三井物産経営企画部業務室次長）

・間宮孝治（電通新ソーシャル・デザイン・エンジン事務局長）

司会：西尾チヅル（筑波大学大学院ビジネス科学研究科教授）

Organized 3：投資家や投資機関とのコミュニケーション

・井垣勉（オムロン執行役員グローバルインベスター＆ブランドコミュニケーション本部長）

・牛島慶一（EY 新日本有限責任監査法人気候変動・サステナビリティサービス CCaSS リーダープリンシパル）

・鳥光健太郎（KDDI サステナビリティ推進室長）

・松本加代（経済産業省経済産業政策局企業会計室室長）

司会：今津秀紀（凸版印刷トッパンアイデアセンターコーポレートコミュニケーション部部長）

Organized 4：メディア・コミュニケーション

・田中太郎（日経 BP 日経 ESG 編集長）

・宮崎伸夫（朝日新聞社総合プロデュース室室長）

・高広伯彦（社会情報大学院大学客員教授）

司会：荻野博司（東洋学園大学グローバルコミュニケーション学部教授）

Organized 5：ESG 関連リスク対応の実務

・中野竹司（奥・片山・佐藤法律事務所弁護士／公認会計士）

・鈴木仁史（鈴木総合法律事務所弁護士）

・松原稔（りそな銀行アセットマネジメント部責任投資グループグループリーダー）

司会：齊藤誠（齊藤法律事務所弁護士）

Plenary Session 2 (Wrap-up)：企業と社会の戦略的コミュニケーション

・川北眞紀子（南山大学教授経営学部教授）

・西尾チヅル（筑波大学教授大学院ビジネス科学研究科教授）

・今津秀紀（凸版印刷トッパンアイデアセンターコーポレートコミュニケーション部部長）

・荻野博司（東洋学園大学グローバルコミュニケーション学部教授）

Chair：Daniel McFarlane (Adjunct Lecturer, School of Global Studies, Thammasat University, Thailand)

■ 2019 年　第 9 回年次大会（9/5-6） B Corp Asia の協力

「サステナビリティ人材の育成と経営教育」

“CSR/Sustainability in Management Education”

Keynote Speakers

・Elisabeth Fröhlich (President, Cologne Business School, Germany)

・Toshio Arima (Chairman of the Board, Global Compact Network Japan)

Plenary Session 1：CSR/Sustainability in Management Education

・Toshio Arima (Chairman of the Board, Global Compact Network Japan)

・Elisabeth Fröhlich (President, Cologne Business School, Germany)

・Takayuki Kitajima (Representative Director, General Counsel, Unilever Japan Holdings)

・Michele John (Professor, Faculty of Science and Technology, Curtin University, Australia)

Chair：Kyoko Fukukawa (Professor, Faculty of Commerce and Management, Hitotsubashi University)

Organized 1：企業における「ビジネスと人権」教育・研修の課題

・菊池浩（法務省人権擁護局局長）

・齊藤誠（ビジネスと人権ロイヤーズネットワーク）

・杉本茂（ANA ホールディングス CSR 推進部）

司会：足達英一郎（日本総研創発戦略センター理事）

Organized 2：Sustainability Leadership Training

・Gefei Yin (Chief Expert, GoldenBee Corporate Social Responsibility Consulting, China)

・Masahiro Okada (Professor, Graduate School of Business and Commerce, Keio University)

・Tomoko Hasegawa (Director, SDGs Promotion Bureau, Keidanren: Japan Business Federation)

Chair：Masao Seki (Senior Advisor on CSR, Sompo Japan Nipponkoa Insurance)

Organized 3：Higher Education for Sustainability

・Akiko Imai (Professor, Faculty of Global Business, Showa Women’s University)

・Joel Malen (Associate Professor, School of Commerce, Waseda University)
・Philip Sugai (Professor, Doshisha Business School, Doshisha University)
・Yoshiteru Uramoto (Professor, Center for Global Education, Sophia University)
Chair：Hiroshi Amemiya (Head of Japan, Arabesque S-Ray GmbH Japan branch)

Organized 4：サステナビリティ人材の育成におけるメディアの役割

・木幡美子（フジテレビジョン総務局 CSR 推進室部長）
・倉持裕和（朝日新聞社 CSR 推進部次長）
・堅達京子（NHK エンタープライズ制作本部情報文化番組エグゼクティブ・プロデューサー）
司会：牛島慶一（EY 新日本有限責任監査法人気候変動・サステナビリティサービス CCaSS リーダープリンシパル）

Plenary Session 2 (Wrap-up)：CSR/Sustainability in Management Education

・Masao Seki (Senior Advisor on CSR, Sompo Japan Nipponkoa Insurance)
・Hiroshi Amemiya (Head of Japan, Arabesque S-Ray GmbH Japan branch)
・Keiichi Ushijima (Japan CCaSS Leader, Principal, Climate Change and Sustainability Services, Ernst &Young ShinNihon)
Chair：Kyoko Fukukawa (Professor, Faculty of Commerce and Management, Hitotsubashi University)

資料 2

以下は，JFBS 学会誌のレビュアーとして貢献していただいた方々のお名前です。記して感謝いたします（敬称略）。

Haider Mohammad Badrul, Silke Bustamante, Mohammad Badrul Haider, Mohammad Tazul Islam, Jaeho Moon, Emmanuel Mutisya, Gustavo Tanaka, Md. Shahid Ullah, Qi Wu, Edward Yagi 青木慶，稲葉祐之，梅津光弘，大月博司，大平修司，大室悦賀，岡照二，岡田正大，梶原晃，加藤敬太，金井一頼，國部克彦，後藤祐一，阪智香，坂下玄哲，佐々木利廣，佐藤正弘，澤井実，澤田直宏，髙美穂，髙田一樹，竹林正人，谷本寛治，土肥将敦，中尾悠利子，中園宏幸，西尾チヅル，西谷公孝，野林晴彦，藤田誠，堀口真司，八木迪幸，矢鋪秀俊，山田仁一郎，鎗目雅，横山恵子